

(1) 開会宣言

放送事業者からの開会宣言

(2) 局からの報告

「第34回さつき祭り」での特別番組について

事務局より以下の通り報告があった。

事務局 「第34回さつき祭りの会場に特設ブースを設けて、そこから発信した。

昨年は、バックヤードスペースに簡易スタジオを作り、人を呼んで喋るような形で発信した。今年は各企業の出店数ブースに1つ枠を設けさせていただいて、そこから発信する予定で、準備をしていました。しかし、1時間半程前から雨が非常に強くなり、会場から発信することは断念した。

そして、パーソナリティをスタジオに1人配置し、もともとの会場から本当はメインパーソナリティをやるはずだったメンバーが残り、そこに電話を繋いで話をしていくという形に変更した。

会場には木村が残り、その場で、インタビューする人を捕まえてきて、質問内容をその場で打ち合わせして発信をした。

皆さんには、聴いて頂いた中で素直な意見を頂きたい。」

事務局B 「当日の放送時間帯は特に雨が強く、ブースの前を通る方がかなり少なかった。その為、雨の中出展していた企業ブースや食い道楽の方にご出演を頂いて、番組を進行した。」

A 氏 「初日の雨の影響もあって、2日は多くの方が祭りに訪れた。

外でブースを設けるメリットは多く、雨が降らなければ、より多くの方にPRできたのではないか。ただ、今回はメインステージがホールだったので、予めホワイエでブースを設けてもよかったです。どちらが正解だったのかは、判断が難しい。」

B 氏 「実行委員会と事前に相談し、晴れパターンと雨パターンを用意できればよかった。」

事務局 「今後も外に出て放送していく機会を増やしていきたい。雨はコントロールすることが出来ないので、都度対策を立てながら準備していく。」

B 氏 「イベントの取材には行っているのか？」

事務局 「生中継で現地と繋ぐような取材は稀である。市長への表敬訪問など、その場に行ってインタビューを撮るような取材は、かなり細かく対応している。イベントや祭りなど、映像があって成り立つような行事には、告知はするが、現地で中継することは少ない。」

B 氏 「公共性が大きいイベントや祭りは、現地取材をしていくべきではないかと感じた。」

第一号議案「番組審議」

番組名：岡佳奈の教えて、三原二之丸会

出演：岡佳奈 山崎愛一郎+三原二之丸会

事務局 「今回の審議は、6月からスタートした月1回の番組『岡佳奈の教えて、三原二之丸会』である。岡佳奈さんは、RCCで毎週土曜日に『週末ナチュラリスト』という番組をされているフリーパーソナリティである。彼女と三原二之丸会の方が、三原の歴史について掛け合っていく番組である。

岡さんを起用した理由は、神社などに興味があり、また、過去に定期的に三原に訪問し、三原の観光地などを紹介する10分程度のテレビ番組を担当していた背景がある。

番組では、三原の歴史に関する1枚の写真をSNS等で発信し、この写真にまつわるエピソードを三原二之丸会の方が解説したり、岡さんが絵本の読み聞かせを行っている経緯から、三原のむかし話を朗読してもらい、その内容について三原二之丸会の方が解説したり、三原の歴史を深堀りするコーナーを設けている。

皆さまに聴いた感想を伺いたい。」

座長「岡さんも山崎さんも話がうまく入り込みやすい。」

A 氏「映像がない中、難しい題材を言葉だけ伝えている岡さんと山崎さんは能力が高い。2人が掛け合うことで、楽しく聞くことができた。工夫を感じた。写真のコーナーに関しては、SNSで複数回投稿されていたので、問題ないと感じた。」

座長「番組内でも、写真コーナー前に「インスタグラムを見て下さい」などアンスがあればよかったです。」

A 氏「昔の方は、写真を見て懐かしく感じ、興味が惹かれるのではないか。」

B 氏「月1の放送にも関わらず、掛け合いがなじんでいる。パーソナリティがうまい。SNSでの写真発信のアイデアもよいと感じた。SNSフォロワー数を向上させることが必要である。」

事務局「この番組は、収録である。岡さんにせっかく来て頂いているので、今後は公開収録という形をとっていきたい。そして、来て下さるリスナーとも掛け合いながら番組を進めていきたい。」

C 氏「率直に、大変面白かった。山崎さんは引き出しが多い。三原市民も知らない事が多く、非常によい番組であると感じた。三原の昔話を紹介するコーナーでは冒頭に、『どこの地域の話なのか』を発信した上で進めると、昔話の聴きながら、その地域の景色を思い浮かべ、より楽しめるのではないか。」

D 氏「岡さんが非常にうまい。掛け合いがよく、聴きやすかった。」

F 氏「過去に山崎さんから三原の歴史について学んだこともあり、当時の教わった事が話に出てきて、より楽しく聞くことができた。」

A 氏「新しく出来る三原市歴史民俗資料館での公開収録を検討してもいいのではないか。」

事務局「山陽建設さんがスポンサーについてくださっている。三原で長く事業をされているので、三原の歴史を残していくという部分で共感を得た。また、岡さんが山陽建設さんの玄関の音声案内やイベントの司会をしている背景もあった。」

## 第二号議案「ご要望について」

座長「三原市歴史民俗資料館での公開収録を前向きに検討してみたらよい。」

事務局「学生など若い方にも届くように発信していきたい。」